

平成 18 年度国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業
採択地域及び事業の概要

1 総評

「平成 18 年度国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」の募集に対し、約 1 ヶ月間という短い公募期間にもかかわらず、北海道から沖縄まで、都市、中山間地、新興住宅地等の様々な特色を持った地域から、75 件という多数の応募が集まったことに、我が国における持続可能な開発のための教育（E S D）への関心の高まりを感じます。

応募の多くは、環境保全を中心とした課題を入口としつつ、学習のテーマを国際理解や地域づくりに広げる教育事業であり、それぞれが地域の課題を出発点とした優れた提案でした。また、その他にも、福祉、人権、ボランティア、子育て支援、ソーシャルインクルージョンといったテーマを入口として E S D に取り組む教育事業もあり、E S D の対象の広さや多様性が感じられました。

応募事業の多くが、地域でこれまでに築きあげてきた活動や組織をベースとしているものでした。いずれも地域に根ざした優れた活動であり、原石としての輝きを秘めた提案です。そのなかで、今回は全国に E S D を促進するためのモデルとして、環境教育にとどまらないテーマの広がりを目指すもの、これまでに交流のなかった分野の異なる多様な主体との連携を進めるもの、地域住民の参画を促進するもの等を高く評価しています。

今回は、限られた枠の中で採択事業を絞り込まざるを得ませんでした。応募団体には、今回の審査結果にかかわらず、今後も E S D の視点を大切に、地域に根ざした教育活動を展開していただけることを期待しています。

環境省「平成 18 年度国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」検討委員一同

2 個別事業について

地域	事業テーマ	事業概要	採択理由
北海道石狩郡当別町	北海道の特長を生かした、食に根ざした持続可能な社会作りの教育の仕組みづくり	学校と地域が連携し、無農薬作物の栽培を通じて健康や生態系について学ぶ食育等をテーマとする教育プログラムを開発・実施する。そのほか、スウェーデンの姉妹都市との環境教育に関する交流や先住民との交流により、持続可能な社会について考え学ぶプログラムの開発・実施等を行う。	学校と地域が協働して、農業・暮らし・環境のテーマを総合的に取り扱うモデルとして高く評価。 NPOが連携の拠点となり、地域住民の参加を促し、地域づくりにつなげることを期待。
仙台広域圏及び宮城県全体	複数市町村を連携したESD活動推進プロジェクト ～海・山・まちを繋ぐ持続可能な地域づくり～	仙台市、気仙沼市、大崎市田尻地区を含む仙台広域圏で、ESDを行う学校やNPOの人的交流や、環境教育、地産地消等の食をテーマとした地域（市）間の交流を実施するとともに、市民向け会議でESDの取組を発表する。そのほか、仙台広域圏で行われているESDの取組の宮城県全域への拡大等を行う。	大学、県や市の教育委員会・行政、メディア、市民組織等の多様な主体が連携した広域圏でのESD推進体制のモデルとして高く評価。 広く薄い取組ではなく、各地における住民の参加を促す工夫に期待。また、環境学習の優れた取組のある地域であることから、それらをESDに発展させることを期待。
湾奥部（沿岸地域） 江戸前の海（羽田から船橋にいたる東京	江戸前の海 学びの環 づくり 持続可能な 沿岸海洋のための教育 （略称：江戸前の海 ESD）	過密な利用による環境の劣化が懸念されている東京湾奥部の環境・生物・利用について、漁業者や釣り人、自然保護活動参加者等と語り合うことにより多面的な理解を促進する「江戸前の海カフェ」の設置、海を生業とする人々に海や町の変化について話を聞き、江戸前の海の体験を共有する「江戸前の耳袋」の実施等を通じ、「江戸前の海」の持続可能な利用のあり方を学ぶ。	具体的で市民の理解や興味が得られやすい内容であり、沿岸部という切り口で地域の住民参加につながるモデルとして高く評価。 環境（自然保護）と経済（漁業や港湾機能）や社会（暮らし）を総合的に取り扱う教育を期待。

<p>交流振興特区 山梨県北杜市須玉町 増富地域</p>	<p>都市と農村の多面的交流による持続可能な農村地域開発「村・人・時代づくり」 ～ラーニングバケーション・ラーニングコミュニティ～</p>	<p>都市の住民を農村に呼び、森林作業や農業・自然体験等を通じて自然の重要性や、森林・農地などの農村資源の現状・活用方法について学ぶことを、ラーニングバケーションという。このような事業を、都市と農村の多面的学習交流に発展させ、持続可能な農村地域社会開発の手法として確立する。</p>	<p>山村において、都市農村交流体験プログラムをESDに継続・発展させるモデル的な取組として高く評価。農村の振興・まちづくりにつながることも評価。事業実施時には、地域住民や教育委員会・行政等の参加を促し、継続的な活動とする仕組みづくりを期待。</p>
<p>静岡県三島市及びその周辺地域</p>	<p>ESDによる「水都・三島」の再生・協働プラットフォーム事業の展開</p>	<p>ESDの観点から、三島地域の水辺自然環境の改善のための市民、NPO、企業、行政のパートナーシップ（「グラウンドワーク三島」）の活動・組織の整理と再構築を行う。そのほか、県内外の大学との連携による、ESDに関する人材育成拠点の開発等を行う。</p>	<p>既存の環境改善活動を、ESDの視点から再構築（環境以外の分野との組織連携、ESDプログラムの体系化、担い手の発掘）するモデルとして高く評価。自然再生にとどまらず、まちづくり等とつなげた総合的な教育テーマへの発展を期待。</p>
<p>廻間町、石尾台地区など 愛知県春日井市（高蔵寺、</p>	<p>ギフチョウを中心とした自然環境再生事業「ひがたかネイチャー」の確立</p>	<p>市民団体や社会教育施設、大学、企業が協力し、Eラーニングを活用した地域住民への自然環境学習コース等を通じて、ギフチョウを含めた自然環境再生の実現を中心とする活動への多くの地域住民の参加を促す。</p>	<p>新興住宅地域における住民参加型自然再生・地域づくりとして、また、企業が大きな役割を果たすモデルとして高く評価。ビオトープにおける環境教育から、より総合的なESDテーマに発展させることを期待。</p>
<p>大阪府豊中市</p>	<p>ESDとよなか次のステップへの推進事業（仮称）「ESDとよなかりソースセンター」構想</p>	<p>現在のESDを推進するための行政と市民組織の連携組織「ESDとよなか」を発展させるため、異なる教育分野間の連携促進のためのコーディネート機能の強化・定着を図る「ESDリソースセンター」の構築等を行う。</p>	<p>既に地域ぐるみの総合的な教育の取組を開始している地域において、個別の教育活動を支援する地域拠点（リソースセンター）の構築により、より効果的なESDを目指すモデルとして高く評価。 リソースセンターに必要な機能や具体的措置を十分検討し、実効性を高める工夫とその効果の検証を期待。</p>

兵庫県西宮市	環境学習を通じた持続可能な社会システムの構築	環境、福祉等の多様な分野に関わる市民、NPO、行政等の主体が連携し、地域社会でESDを実践するための推進体制づくりや、異なる教育分野間をつなぐ地域コーディネーターの育成プログラムづくり等により、市民が生涯にわたって学ぶ力を育むまちの仕組みを確立し、同世代の他地域や次世代に対して持続可能性を尊重する「まちづくりの理念」や「社会システム」の構築を目指す。	流動人口の大きい都市部において、市民、企業、行政という地域の多様な主体が参加する地域ぐるみのESDモデルとして高い評価。 環境とその他の分野を総合的に扱う研修等のプログラムの作成、地域コーディネーターの育成に期待。
高知県幡多郡大月町柏島	四国西南端 柏島をモデルにした環境学習から始まる持続可能な里海づくり	柏島の持続可能な利用のために「里海」をキーワードにしたESD推進体制を構築する。具体的には、海の生態系と海が人間にもたらす恵みを持続可能な方法で利用していくための社会的な課題を、フィールド実習等を通して学び考える「柏島ESD」の確立、教員を対象とした環境学習の研修、「里海」を題材として活動する団体を対象とする「里海シンポジウム」の開催、柏島のローカルルール「柏島里海憲章」確立を目指した合意形成のサポート等を行う。	「里海」という新しい概念や、自然保護と島民の共生という分かりやすいテーマ、地域の人々によるローカルルールづくり等を過疎地域のESDモデルとして高く評価。 テーマを環境保護に限定せず、地域づくりや産業と環境の関わり等に総合的に広げること、地域住民が参加する仕組みづくりを期待。
北九州市	市民協働による環境・経済・社会活動の実践統合型ESDの推進	世界のモデルとなるような持続可能な社会(=「世界の環境首都」)構築を目指し、市民、NPO、学校、企業、行政等の様々な主体のパートナーシップによる「北九州ESD協議会」が、ESDという概念の普及、様々な教育の場へのESDの導入、地域でESDを継続していくための基盤づくり等を行う。	多様な主体のパートナーシップによる総合的なESDモデルとして高く評価。 環境教育、国際理解教育等、異分野の教育の有機的な統合や、北九州の地理的特性を活かした東アジアの近隣諸国との国際連携・協力のモデルとして期待。